

今月のコラム

『花と緑のまちづくり』宣言に向けて

NPO法人ガーデンを考える会 会長 上野 和治



平素は会の運営、活動に対し、格別のご理解、ご協力、ご支援を戴き、ありがとうございます。

この度通常総会で発表させていただきましたように、当会は全国首長会と関係市民団体が一緒になって『花と緑のまちづくり』と題して推進プロジェクトを立ち上げました。全国組織でまちづくり、地域づくりに取り組んでいこうと交流の場をもち、改めて花と緑にかかわる活動範囲を広げていき、近い将来には100市町村(全国市町村の一割)越の地域連携を目指しています。会員の中には、何を今更、『花と緑でまちづくり?』と思われる方もいらっしゃるかも知れません。しかし、この今更の再確認が大切なのです。当会設立時の定款に改めて目を通してみますと、目的の初め(1).に**まちづくりの推進を図る活動**とあります。そして、(4).に**各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する、連絡助言又は援助の活動**とありました。当時、正しく先輩諸氏が設立にあたり、心を一つにしたのは今回の花と緑のまちづくりプロジェクトのようなものではなかったのではないのでしょうか？

日本国民は今後、超高齢化社会に向かい、国民一人当たりのGDPも主要OECD加盟国中最下位という立ち位置で経済活動も非常に厳しくなっています。国はより効率優先の産業構造に変えて仕事を生産性の高い取り組みに舵を切っています。今後、益々人口減少が進み経済活動の担い手が少なくなり、産業のロボット化や仕事のAI化活用が進むこの流れの中で、果たして私たちの生活スタイルは付加価値の高い社会構造に変えていくことが可能でしょうか？

私たちの生活は地域を通じての環境づくり、あらゆる面での生活活動空間デザインでもあるのです。私たちが生涯元気で楽しく生き抜くためには充実したライフスタイル再構築の必要があり、そこに住む人々の生き甲斐作りなのです。目指すは世界中で取り組みが進められている“サステナブル社会”を目指す次代の社会モデルではないのでしょうか？

科学技術の発展は、生活の質の向上をもたらしましたが、エネルギー、地球温暖化、環境汚染など、多くの問題も生んできました。私たちの活動がこのような過去への反省の念も込め、今後の地域社会再構築に向け「自然環境」「産業経済」「人間生活」の調和を保ちながら健全な発展を続けていく持続可能な社会を目指す足がかりになればこれほど素晴らしいことはありません。そのためには教育、産業、あらゆる分野との繋がり、実学バインド効果が期待される私たち活動が必要なのです。

会員皆が直接植物に関わっているわけではありませんが、全ての人々は幼少期から生涯終えるまで色んな意味合いで自然と関わり合い、寄り添い、育て、活動しています。地域の人々として自然を意識しながら『花と緑で地域づくり』に関わり合い、まちづくり宣言活動を皆で進めて行きたいと思えます。

今後、皆様がこの活動を積極的に押し進めて、会員数増加の輪を広げ、全国的な活動支援を行える団体に成長するものと確信し、出発に向けての言葉とさせていただきます。



カエデ
kaede

会からの報告

「花と緑のまちづくり」フォーラム 9月9日、九州大学で開催

今回のフォーラムは、全国首長会とその市民団体、プロ集団であるガーデンを考える会による『花と緑のまちづくり』全国組織の立ち上げ、キックオフフォーラムとなります。

フォーラムでお話し頂く桂川亀岡市長始め講師の皆さん、「美しいまちづくりには花や緑が欠かせない」との思いで、実際に実践されている素晴らしい方ばかりです。

◆フォーラム詳細・申込 <http://www.npogarden.com/houkoku.htm#seminar1809a>

基調講演は、花と緑のまちづくりの経済性とコミュニティ効果を紹介

基調講演のビズ編集長・八木波奈子講師は花と緑のまちづくりの重要性を全国の実例をもとに写真と共に紹介します。

その1. 花と緑のニュータウンとして、BISES1996年9月に大特集した、九州福岡の「新宮湊坂」は大きな反響を呼ぶとともに、約30年経っての現在の不動産価値を積水ハウス株式会社が実証。



▲東日本大震災から復興したコミュニティガーデン「雄勝ローズファクトリーガーデン」

▶経済性も実証した
花と緑のニュータウン新宮湊坂



その2. 2014年にBISESの「3.11 ガーデンチャリティ活動報告」として特集した宮城県石巻市雄勝が今凄いことに。ガーデンの名は「雄勝ローズファクトリーガーデン」、現在59件を超える団体からの寄付、2013年～2017年の間の助成金17件。本当に、美しく見事なガーデンを作ること、食産業も周辺に出来そうだし、離散した人も戻ってくるかも。

その3. 人口4万人の小さな新潟県見附市に「みつけイングリッシュガーデン」をつくり、隣接地には「見附テクノガーデンシティ」と銘打った産業団地、50社の誘致に成功。税収基盤が出来上がる。ガーデンに隣接するホテルは市長必死の誘致でやってきたが、いまでは満室が続く。中心のガーデンは市長が育てた市民のボランティアがおこなう。

▶税収基盤となったコミュニティガーデン「みつけイングリッシュガーデン」



その4. 東京都武蔵野市の空き家対策＜テンミリオンハウス＞が実に面白い！ テンミリオンハウスとは、空き家を市がリフォームして、近隣の元気な高齢者のお茶のみ談話施設にしたもの。ガーデニングリーダーにコミュニティガーデンづくりのプロ『グリーンワークス』が入り、季節のきれいな花々を咲かせている。近隣住民やここに通う人たちと庭づくりをしている。

◀武蔵野市の空き家を活用した高齢者向け「テンミリオンハウス」



カエデ
kaede

2018 9 SEP. Vol.104

NPO法人ガーデンを考える会 会報

活動報告

5年目を迎えた、 花と緑のおもてなしガーデン

平成30年8月1日

有限会社 緑花技研 藤田 茂

2018年の作成報告

都立シンボルプロムナード公園ヴィーナスフォート前「花と緑のおもてなしプロジェクト」における、ガーデンを考える会のタイトル「ストライプ花壇」を作成しました。イポメアのライムとスイートキャロラインパープル及びリッピアによるストライプ模様の花壇に、マンデビラ、ベンガルヤハズカズラ、ツンベルギア(黄花)による円柱を加えて演出しました。地面の植栽は9株/㎡で直径1m、高さ1.2mの円柱には1基当り8株植栽し、背後は昨年と同じマンデビラによる壁面緑化としました。広い面積を安価に装飾する事が売りの花壇です。本年は灌水装置を設置せず、週1回の東京港埠頭株式会社による灌水のみとしました。

本年は、幾つかの大学に声を掛け花壇の設計から、施工まで行ってもらった計画を立てましたが、応募が無くこちらで設計しました。昨年まではネット張り等を造園業者に委託し別の日に行っていましたが、ボランティアの参加者が少ないため、造園業者2名と有償のアルバイト4名を雇い、6月16日の1日でネット張り、除草、植栽、施肥まで完了させました。本年は異常ともいえる高温続きでイポメア及びツンベルギアの伸びがいまいちでしたが、7月末にはほぼ地面をカバーし、円柱の上端まで伸長しました。

協力企業は下表のとおりです。

会 社 名	内 容
株式会社フラワーオークションジャパン	マンデビラ
株式会社ハイポネックスジャパン	マグアンプK
株式会社フラワーオークションジャパン	植物手配
株式会社フラワーオークションジャパン	植付け作業員3名
有限会社緑花技研	植付け作業員1名



2018年6月16日



2018年7月23日



2017年ガーデン



2016年ガーデン



2015年ガーデン



2014年ガーデン



カエデ
kaede

2018 9 SEP. Vol.104

NPO法人ガーデンを考える会 会報

園芸業界ニュース

「ゆめの未来公園はじまる！」 第34回 全国都市緑化やまぐちフェア

9月14日(金)～11月4日(日)

平成30年は明治改元から150年という節目の年になる。山口県では、明治維新に重要な役割を果たしたことを振り返り、吉田松陰や高杉晋作など幕末・明治期の未知の時代を切り拓いた先人たちの精神に学び、新しい日本と山口県のあり方を考え、実現に向かえるよう、明治150年プロジェクト「やまぐち未来維新」を展開しており、「ゆめの未来公園はじまる！」をキャッチフレーズとして全国都市緑化やまぐちフェアを開催する。



山口きらら博記念公園。2001年に開催された地方博覧会「山口きらら博」の跡地を県民のスポーツ活動の支援・交流の場として整備され海辺に広がるスポーツ施設と広大な緑地が広がる。

花の谷ゾーン。ここにしかない非日常の花景観・圧倒的な花の数・品質・美しさを五感で体験！

園芸業界ニュース

第11回美し国三重 「寄せ植え」コンテストに168点 技術レベルも目覚ましい向上

第11回美し国三重「寄せ植え」コンテストが6月1日から11日間、三重県津市にある高野尾花街道 朝津味の「ゆめひろば」で開催され、県外からの出品も含め今年は168点の作品が出展された。それぞれの作品は技術的レベルが目覚ましい向上を見せており、主催者は「一般愛好家の皆さんの『寄せ植え』に対する関心の高さと情熱の深さを改めて認識した」。



一般コンテナガーデン部門で三重県知事賞を受賞した鈴木美穂子さんの「初夏の花咲く散歩道」



フレーム部門で三重県知事賞を受賞した分部和子さんの「梅雨の朝」